

異文化と 心通わせ

村田 佳子



東京都内で行われる医療関係の国際会議で進行指示を出してくれたティアの先生が壇上で座長を務めました。慣れない仕事でした。だつたのですが、丁寧にアナンスをさせていたしました。たくさんの原稿を読む、発表者の時間と並んで、会場の運営者約2000人が参加するシンポジウムが開催されました。決められた業務を言われるとまことになし、滞りなく時間が過ぎていきました。

2日目になると、年配の先生が壇上で座長を務

心を込める

ると？

長年貢献された
お年を召した
が声を出すと
それが音とな

稿ありがとうございました。
Thank you very much, Dr. ○○」

（ほむるうじんぐ）とい
ふくらむおもてのハレベー
ターの中で一人ニヤケて
しまいました。

められるセッションがありました。その先生はそのシンポジウムを主催する医学系大学院

には、遠く海外からの参
加者、朝勤務を終えたほ
かりでそのまま来たとい
う方々がいる。今度は原
因は「(元々、)会社の仕事に

導者として仲間を紹介す
る姿を見て、私はほっとす。そして満面の笑みで、
させられました。(い)の「素晴らしいアナウンス
歴史ある会はこうした先
生方によって大切にされ
ているものなのだ。会場
び止めてしまったので
る姿を見て、私はほっとす。そして満面の笑みで、
させられました。(い)の「素晴らしいアナウンス
でした。聞かれてかった。
おかげで今まで無事会議を
終えることが出来ました。

でおなかから声を出さない
いと声は届きません。ス
テージの横にいた私はま
で鳥道いが聞こえてくる
ほど先生はめいっぱい声
を出してこれから発表を
する教え子（主催者）の
これまでの功績や情熱に
ついて語りました。

ワークを感じ前日よりも
樂しんで仕事ができまし
た。
そして4日目の最終日、
無事シンポジウムが終了
し帰宅するところのことで
す。エレベーターへ向か
う途中、各団の参加者に
囲まれていた主催者であ
る田原がわざわざ私を呼
びシスコムズ

談しなからタイミングに
気をつけるよう心がけま
した。イベントが順調に
進んでいく様子とチーム
ワークを感じ前日よりも
楽しんで仕事ができまし
た。

そして4日目の最終日、
は「ただやる」と「心
を込めてさせてしまふ」

無事、シンボジウムが終了のとでは、結果もそし
し帰宅するところのことであつて自分の中に残る気持ち
す。エレベーターへ向かう途中、各國の参加者に
囲まれていた主催者である岡田田身（岡田田身）、「コーチン
の食」がわざわざ私を呼んで、あらためて実感しました。